

## 刊 行 に 当 た っ て

2011年に財団法人「日本青少年研究所」が日米中韓の高校生を対象に実施した調査では、「自分はダメな人間だと思ふことがある」と回答した生徒の割合は日本が83.7%で、米国(52.8%)など3カ国を大きく上回るという結果が出ています。また、別の調査では、新規高卒就職者が離職する理由の第2位に「職場の人間関係」(2009年 東京経営者協会による調査)があげられており、企業が採用選考に当たって重視する能力の第1位は「コミュニケーション能力」(2010年日本経済団体連合会調査)となっています。これらの調査結果から、自尊心が低く、他者や社会との関わりを苦手とする若者像が浮かび上がってきます。

近年、急速な社会の変化や生活様式の多様化などから、自然や社会との関わりや実際に体験する機会が失われ、子どもたちが自分に自信がもてず、将来の夢や希望を語る事が難しくなっています。しかし、東日本大震災の直後から被災地では、理不尽で厳しい現実に向かい、他者を思いやり、「される人からする人へ」と自らボランティア活動等に励むたくましい子どもたちの姿が多く見られ、私たちは大変勇気づけられる思いがしました。子どもたちは、さまざまな体験や他者との関わりを通して、社会の一員としての自覚を高め、豊かな心と広い視野をもった社会の発展に貢献できる若者に成長していきます。

平成21年3月に告示された新学習指導要領では、学校教育全体を通じて発達段階に応じた道徳教育に取り組むことが示されました。高等学校段階における道徳教育では、生徒が人間としての在り方生き方について自ら考え、体験活動や思索の機会を通して自分自身の判断基準を確立し、自分にふさわしいよりよい生き方を選択できるようになることを目標としています。

こうした状況を踏まえ、愛知県教育委員会では、平成22年度より、各学校が、総合的な学習の時間や特別活動の時間などさまざまな教育活動の場で具体的に活用することのできる道徳教育指導参考資料の作成を進めてまいりました。この冊子に掲載されている教材を授業や実践のヒントにして、先生方一人一人が創意工夫を重ね、一層充実した取組を行ってくださることを期待しています。

平成25年3月

愛 知 県 教 育 委 員 会

# 目 次

第1章 高等学校における道徳教育について	1
第2章 教材編	5
第1節 自己をみつめる	
自立度チェック	7
自分調べ	12
マナーとエチケット	17
15年後の私	23
見てはいけない手紙	29
あと一步の勇氣	32
沈みゆくボート	37
トリアージタッグ	42
第2節 他者を理解する	
「他者」との出会い	49
コミュニケーション実験	57
上手に自己表現しよう!	61
クラスメイトのいいところ探し	68
沙紀の悩み	73
第3節 社会と関わる	
〇〇高校を紹介しよう	80
みんなでつくる条例	86
青少年の問題行動	89
赤ちゃんポスト	92
郷土の偉人 杉原千畝(すぎはらちうね)	97
外国人から見たニッポン	103
模擬国連	109
第3章 学校の実践事例	117
県立惟信高等学校	118
県立守山高等学校	120
県立一宮北高等学校	122
県立岡崎工業高等学校	124

- 本冊子の作成委員として、次の県立高等学校の教員を委嘱した。  
(敬称略、平成24年4月現在)

荻原 哲哉	愛知県立瀬戸北総合高等学校長
平山 進司	愛知県立惟信高等学校教頭
上野 裕章	愛知県立名古屋南高等学校教頭
小瀧 雄一郎	愛知県立岩津高等学校教頭
早川 幹弘	愛知県立千種高等学校教諭
杉山 修一	愛知県立惟信高等学校教諭
豊永 秀行	愛知県立鳴海高等学校教諭
勝見 ひろみ	愛知県立瀬戸高等学校教諭
堀田 庸平	愛知県立東海南高等学校教諭
五十嵐 崇文	愛知県立岡崎工業高等学校教諭
中島 亨	愛知県立知立高等学校教諭
小島 佳世	愛知県立豊橋商業高等学校教諭
横田 和典	愛知県立御津高等学校教諭

○協力校

県立守山高等学校	県立惟信高等学校
県立一宮北高等学校	県立岡崎工業高等学校
県立刈谷東高等学校	